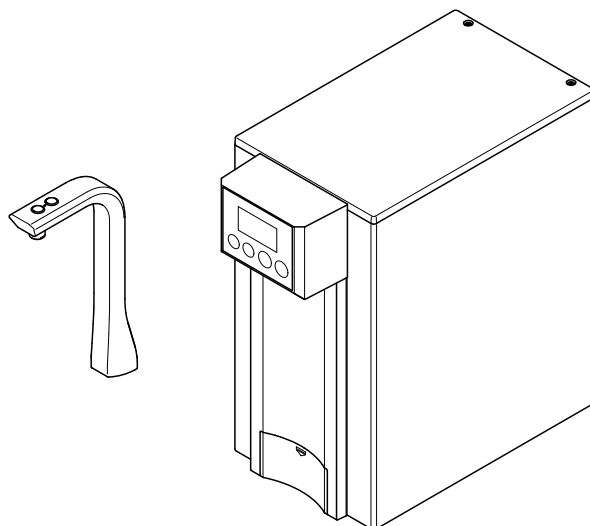


工事要領・取扱説明書

製品名：卓上型電気湯沸器

型 式：EHWDU-14(1) Cafe Edition

アンダーカウンタータイプ



このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書を事前によくお読みになり、理解した上で設置、ご使用ください。
設置工事（試運転）後は、必ず本書をご使用になる方にお渡しください。
本書は、いつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

※この工事要領・取扱説明書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

もくじ

共通項目	2
安全上のご注意	3
EHWDU-14(1)について	5
各部名称	5
仕様一覧	5
操作部・表示部	6
工所要領	8
施工前にご確認ください	9
1. 部品の確認	9
2. 設置場所の確認	10
施工する	11
1. 設置工事	11
2. 配管工事	12
3. 電気工事	13
4. 施工後の確認	13
試運転を行う	14
1. 試運転を行う	14
2. 試運転後の確認	17
取扱説明	18
使用方法	19
1. 使用前の準備と確認	19
2. 各種設定方法	19
沸かし上げ温度を設定する	19
出湯量を設定する	21
Fモード	24
3. 出湯する	28
お手入れの方法	29
保守点検項目と実施の目安	29
長期間使用しないときは	29
短期間使用しないときは	31
凍結防止対策	31
注湯口のお手入れ	31
タンク内のお手入れ	31
外装のお手入れ	31
停電後の対応について	32
湯水入れ替え方法	32
こんなときは	34
故障かな？と思ったら	34
エラーコードについて	35
アフターサービス	36
消耗品について	36
補修用性能部品について	36
メンテナンス契約について	36
修理をご依頼の際には	36

共通項目

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。設置の前に、必ず本書をお読みにになり、内容をよく理解された上で設置してください。製品引き渡しの際は必ず本書をご使用になられる方にお渡しください。

警告表示の意味

本書では、取り扱いを誤った場合などの危険の程度を、次の2つのレベルに分類しています。



警告

この表示の欄は、『死亡または重傷を負う可能性が想定される』内容です。



注意

この表示の欄は、『傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される』内容です。



○の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。
○の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。
(左図の場合は『分解禁止』という意味です。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。
●の中に、具体的な指示内容が描かれています。
(左図の場合は『電源プラグをコンセントから抜くこと』という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

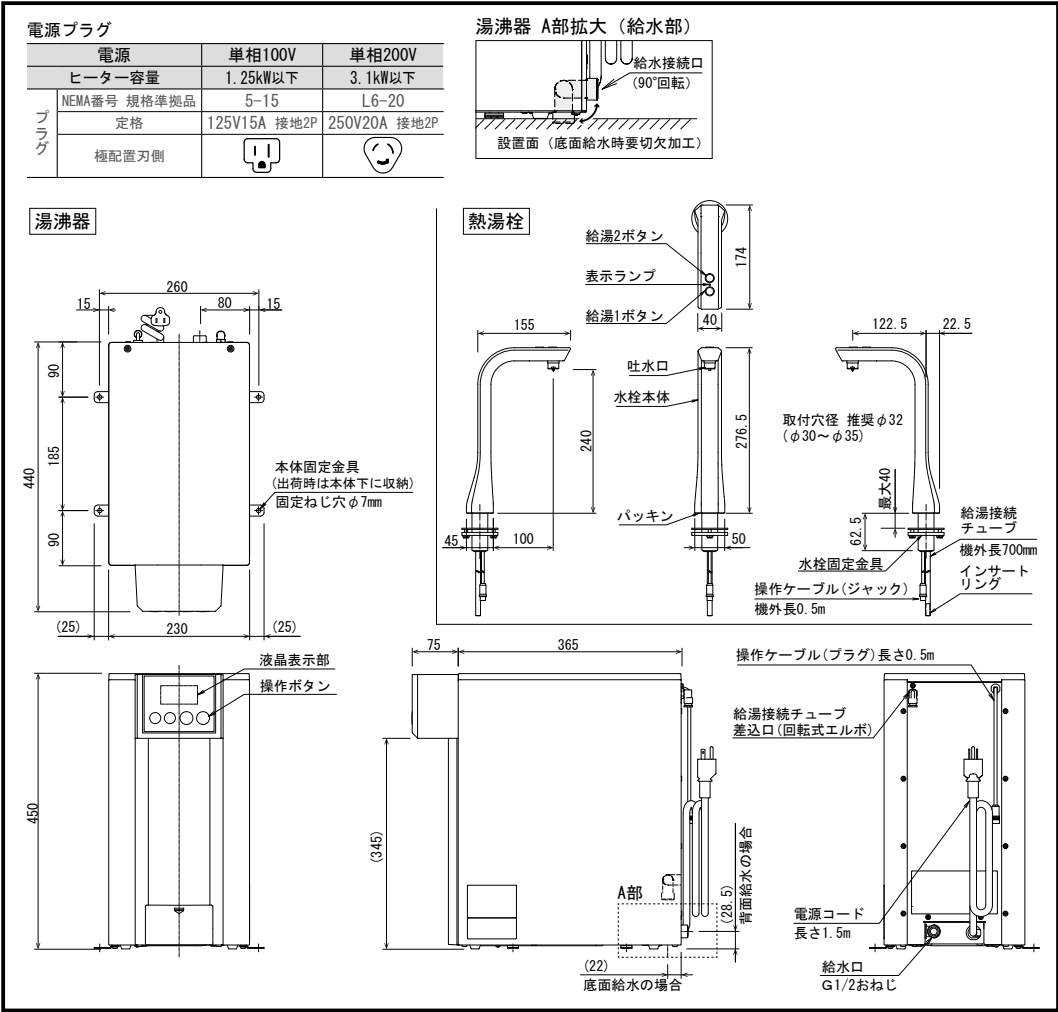
⚠ 警告	
⚡	アース(D種接地)工事を確認してください。 アース工事がされないと故障や漏電発生時に感電するおそれがあります。
!	定格電圧でお使いください。一時変動がある場合には± 10%以内の環境でお使いください。 故障、火災の原因となります。
!	必ず電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、動作を確認してください。 万一の故障等による漏電発生時に感電、火災のおそれがあります。
🚫	絶対に改造はしないでください。 火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。
🚫	給湯中とその直後は高温になっていますので、注湯口や給湯接続チューブ、その周辺部分に直接触れないでください。 やけどのおそれがあります。
🚫	屋外に設置しないでください。 感電、故障の原因となります。
	リセット操作時、メンテナンス作業時以外は上蓋や正面のカバーを開けないでください。 感電、やけどのおそれがあります。
	本体近くにガス類や引火物を近づけたり保管しないでください。 発火のおそれがあります。
	水が掛かったり、表面に結露を生じるような湿気の多い場所、特に浴室やシャワールームには設置しないでください。 腐食や感電、故障の原因になります。
	水・油・洗剤等が掛かる位置に機器本体および電源プラグ用のコンセント(電源プラグ付機種の場合)を設けないでください。 腐食や感電、故障の原因になります。
	タンク内の湯温が高い場合には絶対に排水しないでください。 やけどのおそれがあります。

⚠注意	
⊘	機器本体および配管に乗ったり体重を掛けたり物を載せたりしないでください。 落ちてケガをしたり、漏水や故障の原因となります。
	機器本体に強い力や衝撃を与えないでください。 故障や漏水の原因となります。
	水道水(上水)以外は使用しないでください。 井戸水などを使用すると腐食などにより漏水、故障、発火、漏電の原因となります。
	注湯口からはお湯や湯気などが出ることがありますので、手などを近付けないようにしてください。 やけどのおそれがあります。
	長期間のご使用によってタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがありますので、固形物や変色、にごり、異臭があった場合は使用しないでください。 健康を害するおそれがあります。
!	規定の給水圧力(静止圧)にてご使用ください。 誤動作、故障の原因となります。
	湯沸器本体の満水質量に十分耐えられる強度を持った床や台などに必ず水平に設置してください。 故障の原因となります。
	機器本体へ配管接続する前に配管内のゴミ(切削粉、砂、シールテープ等)を除去するため、止水栓を開き湯水を入れ替えてください。 故障や漏水の原因となります。
	給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用してください。 漏水の原因となります。
	配管に使用するパッキンはノンアスベストパッキンを使用してください。 漏水の原因となります。
	熱湯栓を湯沸器本体よりも低い場所に設置しないでください。 熱湯栓からお湯が出続けてしまうため、正常に使用できません。
	本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所では、各配管に対し、ヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください 凍結により破損、漏水のおそれがあります。
	長期間使用しない場合はタンクの水を抜いてください。 水質が悪化するおそれがあります。
	電源プラグを抜くときは、コードを持たずにプラグ本体を持って抜いてください。 感電、発火のおそれがあります。

EHWDU-14(1)について

本製品は、あらかじめ設定した湯温と湯量を付属の熱湯栓よりワンプッシュで給湯が可能な床置型の貯湯式電気湯沸器です。

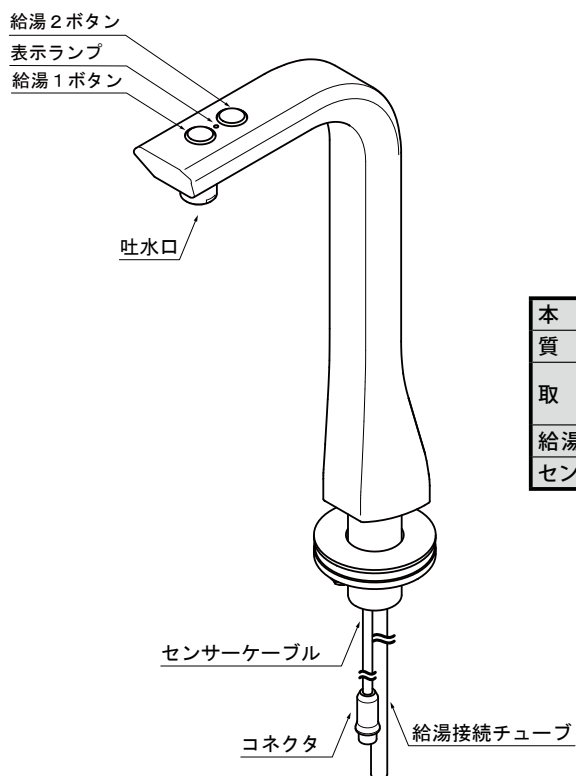
各部名称



仕様一覧

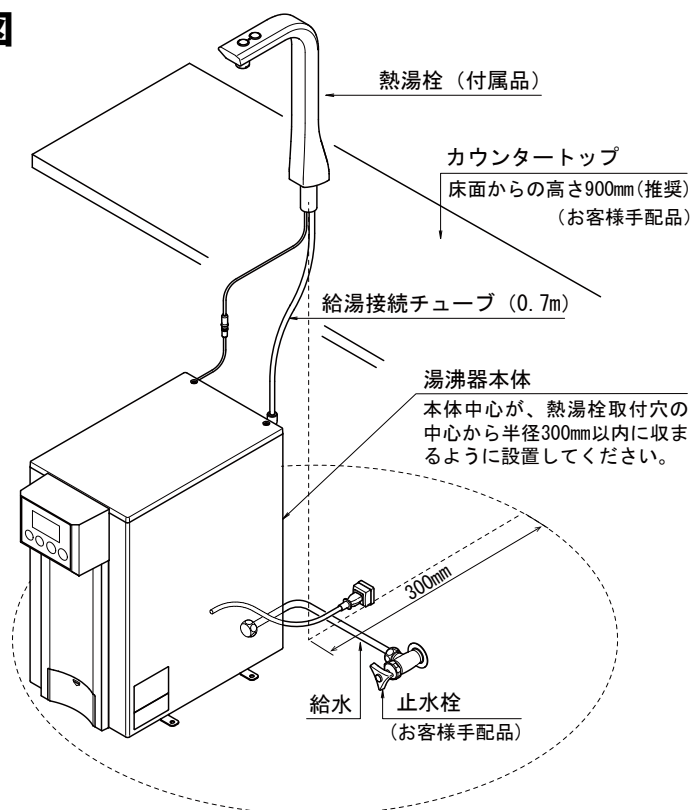
型式	EHWDU-14KB(1)	EHWDU-14VKB(1)
貯湯量(L)	14	
満水質量(kg)	26	
構造	開放型ステップボイル式	
出湯タイプ	定量出湯タイプ	
標準電源	定格消費電力(kW)	1.25
	電圧(V)	単相 100
	周波数(Hz)	50/60
設定温度範囲(°C)	設定環境温度(°C)	70～99
	一次側使用水温(°C)	0～40(凍結しないこと)
	使用水温(静止時)(MPa)	40以下(凍結しないこと)
使用条件	使用場所	0.1～0.75
	設置場所	屋内
	接続口径	G 1/2 おねじ(15 A)
主要部品	ヒーター	シーズヒーター
	電源コード	1.5m
	タンク材質	高耐食ステンレス
安全装置	空焚き・過昇温・異常満水・給水異常・漏水検出・空焚き防止	
各種機能	再沸かし上げ機能	
付属品	本体固定ねじ×4、保護カバー×1、注意ラベル1	
本体色	湯沸器	ブラック
	熱湯栓	スチームシルバー/プレミアムブラック

熱湯栓について



本体寸法	幅 50×奥行 174×高さ 276.5mm
質量	約2.0kg
取付穴径	推奨値: $\phi 32\text{mm}$ (許容範囲: $\phi 30\sim 35\text{mm}$)
給湯接続チューブ長	約0.7m
センサーケーブル長	約0.5m

標準配管図

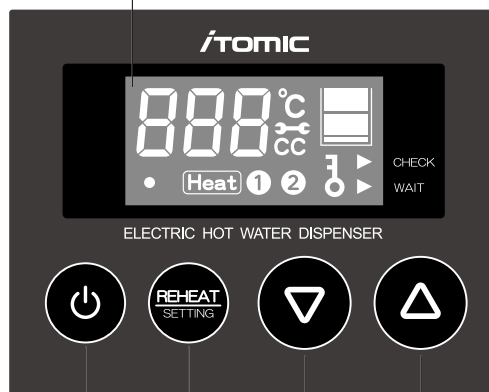


操作部・表示部

操作部

表示部

温度や水位、設定内容などを表示します。



運転スイッチ

運転ON/OFFの切替時などに使用します。

REHEAT/SETTINGボタン※

強制再加熱する際に使用します。また、給湯1/給湯2ボタンの定量出湯量を変更する際や、設定モードに切り替える際に使用します。

※以降「SETTINGボタン」と呼称します。

アップ/ダウンキー

設定温度、定量出湯量などをセットする際に使用します。

液晶表示部

温度/出湯量/設定表示

現在湯温、定量出湯量、エラー内容などを表示します。
湯温が61°C未満の場合は「Lo」と表示され給湯できません。

スパナマーク

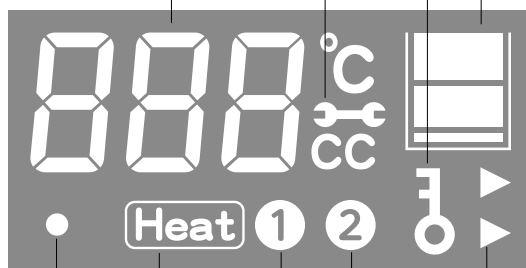
メンテナンスモード中に表示します。

キーマーク

点灯中は給湯できません。

水位表示

タンクの水位状態を表示します。



操作無効マーク

運転スイッチ、設定ボタンの操作を無効にしている時に表示します。

Heatマーク

沸かし上げ運転中（給水＋ヒーター加熱）に表示します。

CHECK/ WAIT

タンク内部の清掃が必要になった時や、湯切れなどにより出湯できない時に表示します。

給湯1/給湯2ボタンマーク

出湯時は操作したボタンを、出湯量セット時は設定中のボタンを表示します。

工事要領

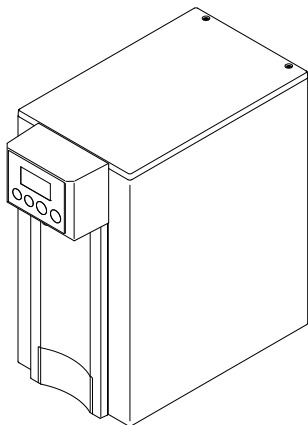
正しく取り付けるため、必ずこの手順に沿って施工してください。

施工前にご確認ください

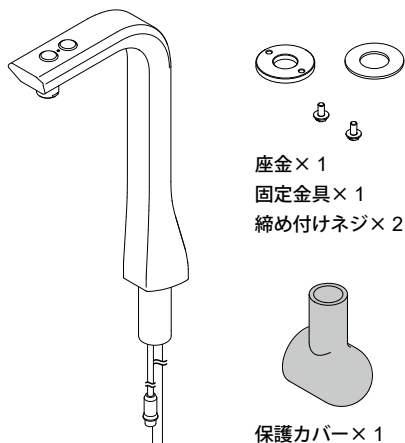
1. 部品の確認

【製品に同梱されています】

EHWDU-14(1) 本体



付属品



座金×1
固定金具×1
締め付けネジ×2

保護カバー×1



工事要領・取扱説明書×1、保証書×1
(この冊子です。当冊子は工事終了後、ご使用になられる方へお渡しください。)



本体固定ねじ×4



注意ラベル×1

【お客様にてご手配ください】

お客様手配品

- ①漏電ブレーカ・・・万一の故障や漏電した際の事故を防止します。(30mA、0.1秒)
- ②袋ナット、ユニオン・・・湯沸器を取り外せるようにするため必要です。
- ③ステンレスフレキ管・・・配管するために必要です。
- ④パッキン、シールテープ・・・配管接続部分から漏水させないために必要です。

パッキンは必ずノンアスベストパッキンをご使用ください。
ゴム製のパッキンを使用すると、漏水のおそれがあります。

上記は必ずお客様にてご用意ください。

関連商品

- ①浄水器セット・・・浄水器カートリッジ、フィルター設置用ヘッド、ブレードフレキ(L=600mm)、ノンアスベストパッキンのセットです。
- ②浄水器カートリッジ・・・交換用の浄水器カートリッジです。
- ③止水バルブ・・・排水やメンテナンス時に本体の近くで給水を止めることができます。
- ④水受けトレイ・・・熱湯専用の水受けトレイです。

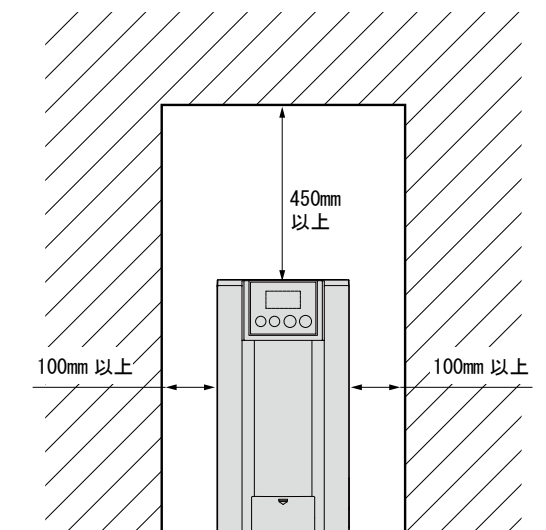
2. 設置場所の確認

項 目	チェック内容	チェック
設置環境	凍結しない場所ですか？ 凍結の可能性がある場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻くなどの凍結予防処置を施してください。	☐
メンテナンススペース	メンテナンスのためのスペースは確保されていますか？ メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスを行えない場合があります。	☐
取付場所	水平な場所ですか？ 水平でない場合は安全に使用できませんので調整してください。	☐
	満水質量に耐えられる場所ですか？ 強度が不十分な場合は補強を行うなどの対策が必要です。	☐
給水圧力	給水圧力は0.1 ～ 0.75MPaの範囲内ですか？ 湯沸器が正しく動作しませんので、必ず上記の範囲の給水圧力があることを確認してください。	☐
コンセント	設置場所付近にコンセントはありますか？ 電源コードの長さは1.5m(標準)です。	☐
電圧	定格電圧の± 10 % 以内ですか？ 電圧が範囲内に収まっていないと、性能を十分に発揮できない場合や、故障・火災の原因にもなりますので、一時変動がある場合にも定格電圧の± 10 % 以内の電圧であることを確認してください。	☐

メンテナンススペースについて

必要なメンテナンススペースは右記の通りとなります。

メンテナンススペースが取られていないと、修理やメンテナンスを行えない場合があります。



施工する

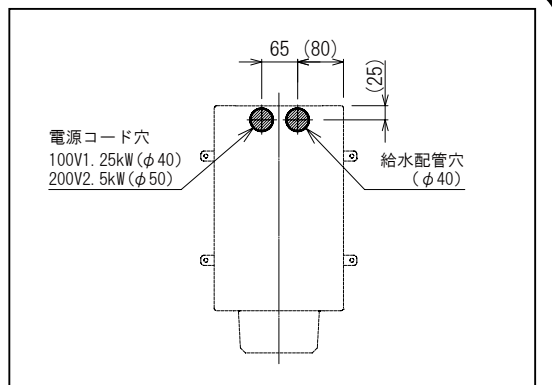
1. 設置工事



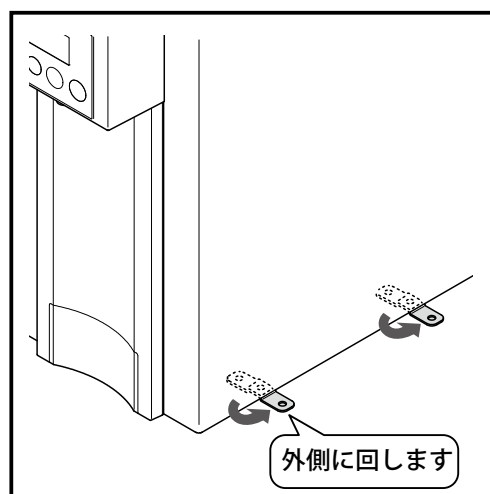
底面から給水する場合は設置台に給水配管穴を開ける必要があります。

また、電源コードを底面に通す場合も同様です。

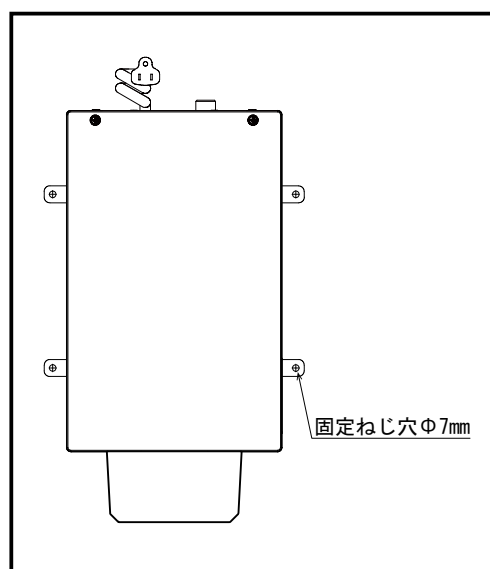
右図を参考にし、穴開け加工を行ってください。



- ① 本体の底下に収納されている固定金具を外側に出してください。



- ② 付属品の本体固定ねじを使用して床や台にしっかりと固定してください。

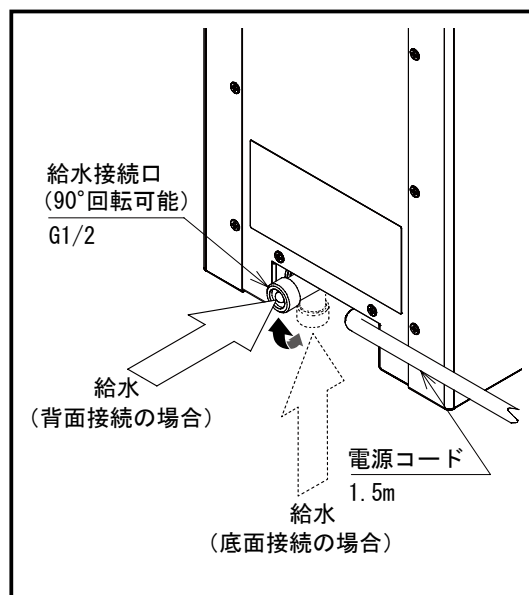


2. 配管工事

湯沸器

①右図を参照し給水管を接続してください。

- ・給水配管にフレキ管（30cm以上）を使用する場合は、ウォーターハンマー現象による振動音を予防するため配管を固定してください。



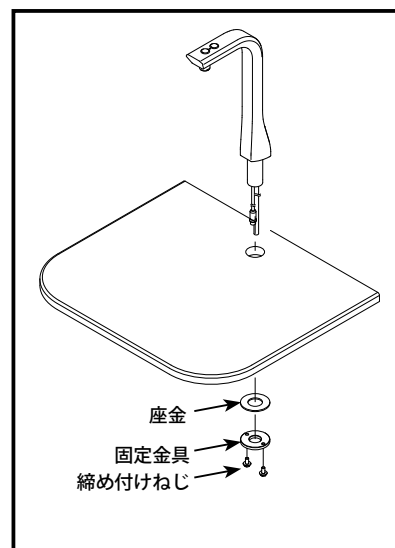
- ・給水配管工事後は、配管内に汚れが残ります。配管内の汚れや薬品臭などを湯沸器のタンク内に入れないようにするため、湯沸器に接続する前にしばらく水を流し続けて配管内の水を捨ててください。
- ・湯沸器に接続する配管はフレキシブル配管とし、ノンアスベストパッキンを利用してください。
- ・本体設置場所周辺の温度が氷点下になる、もしくは予想される場所では、各配管に対しヒーターや保温材を巻くなどの凍結予防措置を施してください。

熱湯栓

- ①熱湯栓の設置場所に取付穴を開けてください。(推奨穴径：φ32mm)
- ②座金をはさみ込み、固定金具を手で回して水栓を固定します。(水栓を固定する位置は取付穴に対し、出来るだけ中心の位置で固定してください)
- ③締め付けねじを工具を使って締め付けます。



- ・熱湯栓を湯沸器本体より低い位置に設置しないでください。熱湯栓から勝手にお湯が出続けてしまうため、正常に使用できません。

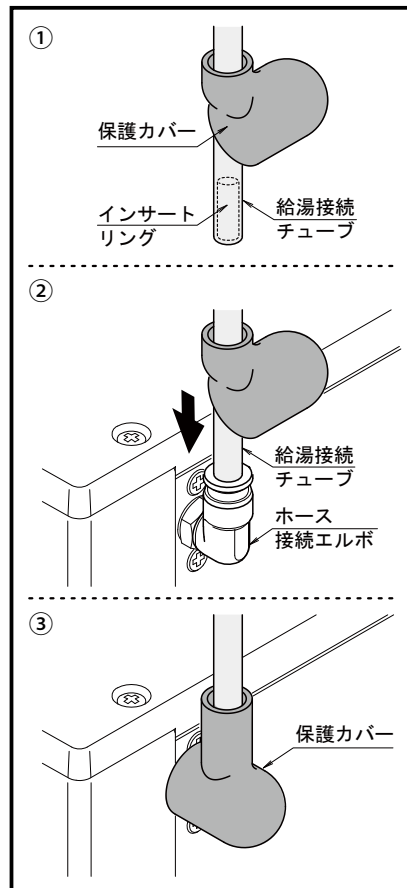


給湯接続チューブの取付方法

- ① 給湯接続チューブを保護カバーに挿入してください。
- ② 給湯接続チューブの先端をホース接続エルボにしっかりと接続してください。
- ③ ホース接続エルボに保護カバーを被せてください。



・給湯接続チューブが届かない場合は、別売品の「給湯チューブ延長キット」をお求めください。

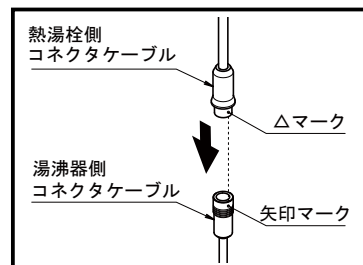


3. 電気工事

電源一次側にお客様手配品の漏電ブレーカを取り付け、D種接地工事を行ってください。

湯沸器側、熱湯栓側それぞれのケーブル先端にあるコネクタをしっかりと接続してください。
△マークと矢印マークの位置を合わせないと接続できません。

※濡れた手でコネクタに触れると故障の原因となりますので、ご注意ください。



4. 施工後の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
設置工事	湯沸器にがたつきはありませんか？	☐
配管工事	給水管の接続部分にゆるみはありませんか？	☐
電気工事	漏電ブレーカは正しく作動しますか？	☐
	D種接地工事は正しく行われていますか？	☐

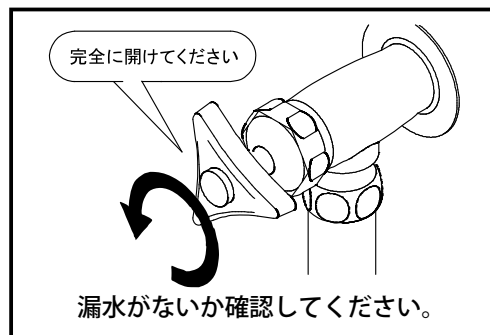
試運転を行う

◆設定温度は工場出荷時の99℃で説明しています。

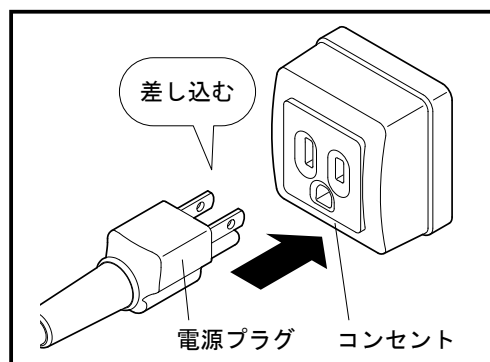
1. 試運転を行う

- ① 止水栓を全開にして、配管部から漏水がないか確認してください。

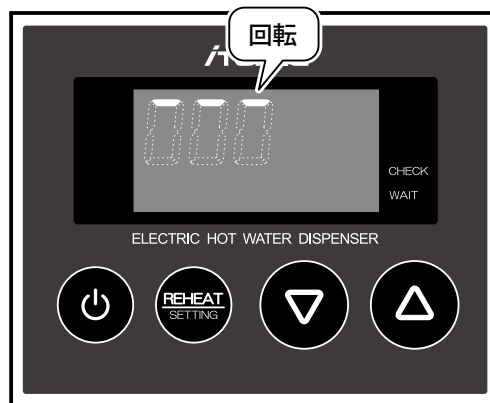
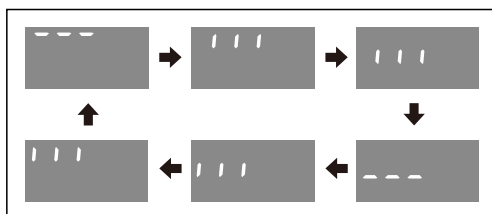
※ この時点ではまだ給水されません。



- ② 電源一次側に設置した漏電ブレーカをONにし、電源プラグをコンセントに差し込んでください。



- ③ 状態チェック動作が行われます。識別表示が行われたあと、前面のデジタル表示部が回転して表示されます(約 20 秒)。



- ④ 状態チェックが終わったあとは「-」の点滅表示となります。(運転 OFF 状態)



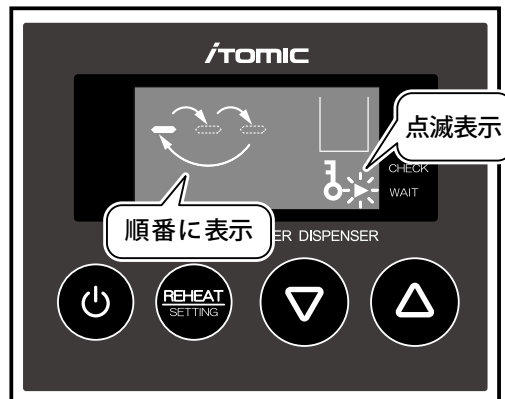
工事要領

試運転を行う

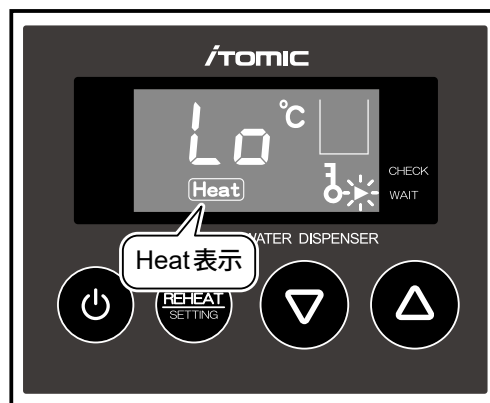
⑤「運転スイッチ」を3秒間長押しして運転 ONにします。③と同様にデジタル表示部が回転して表示されます。(約 20 秒)

⑥回転表示のあと、右図のように「-」が順番に表示され(約 100 ～ 140 秒)、給水が開始されます。

※ WAITの▶マークが点滅表示されている間は出湯できません。



⑦タンク内の水位が上昇すると「Lo」と「Heat」が表示され、沸かし上げが開始されます。

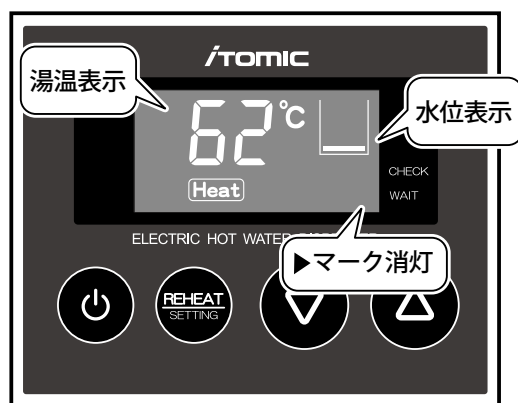


⑧タンク内の湯温が61℃を超えると現在湯温が表示されます。さらに水位が一定量まで上昇するとWAITの▶マークが消灯し、水位が表示されます。同時に♂キーマークが消灯します。

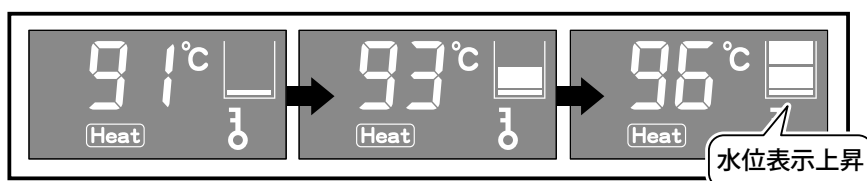
出湯可能となります

熱湯栓の「給湯 1」「給湯 2」ボタンを押すと出湯します。

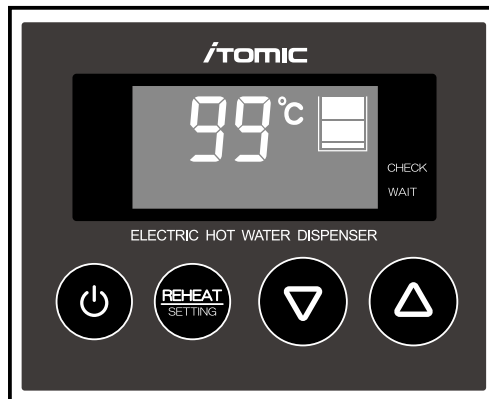
※熱湯栓の表示ランプが点灯していれば出湯可能です。消灯しているときは出湯できません。



⑨タンク内の水位が上昇するにつれて表示が増えていきます。



- ⑩タンク内の水位が満水になり、湯温が99℃になると沸かし上げが完了します。



- ⑪「給湯 1」「給湯 2」ボタンのいずれかを押して、お湯が出れば試運転完了です。

⚠ 確認の際には熱湯にご注意ください。
やけどの危険があります。



出湯量を設定する必要があります

P.21を参照し、出湯量を設定してください。工場出荷時は、「給湯 1」「給湯 2」ボタンともにボタンを押している間だけ出湯する〈継続出湯〉に設定されています。



設置後、使い始めの際にお湯が乱れる（出にくい）場合があります。お湯の飛び散りでやけどをしたり、定量出湯時に湯量が不安定になるおそれがあるため、出湯が乱れた場合は〈5秒程度お湯を出す→止める〉を数回繰り返してお湯の出方を整えてください。

沸き上がり時間の目安

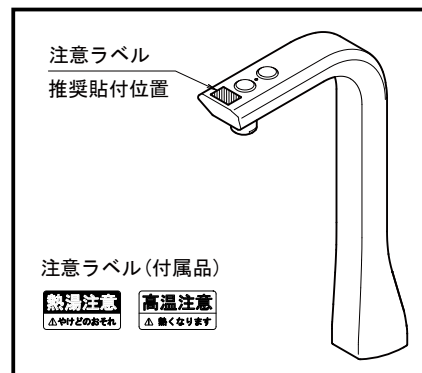
項目 型番	出湯タイプ	貯湯量 (L)	標準電源 (V)	定格消費電力 (kW)	沸き上がり時間 (分)*
EHWDU-14KB(1)	定量出湯	14	単相 100	1.25	66
EHWDU-14VKB(1)			単相 200	2.5	33

※給水温度 15℃、沸き上がり温度 99℃の場合。

2. 注意ラベルを貼る

本製品は熱湯専用の水栓です。連続して出湯すると、水栓本体が高温になることがあります。

必要に応じて、付属の注意ラベル「熱湯注意」または「高温注意」を水栓に貼り付けてください。



3. 試運転後の確認

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
漏 水	各配管、継手に漏水はないですか？	☐
におい、味	出湯したお湯に薬品のようなにおいや味はないですか？	☐

以上で施工終了です。

取扱説明

正しく安全にお使いいただくため、必ずお読みください。

使用方法

1. 使用前の準備と確認

ご使用の前に次の事をご確認ください。

チェックリスト

項 目	チェック内容	チェック
本体まわり	近くにガス類や引火物がないですか？	☐
	本体の上に物などを載せていませんか？	☐

お願い：故障時の対応策をおとりください

故障した場合、修理完了までの間機器は使用できません。給湯不能時の営業保証はいたしませんので「故障＝営業停止」に至るような使い方はお避けください。予備機を設置するなど運用でカバーできる体制を事前に整えてください。

2. 各種設定方法

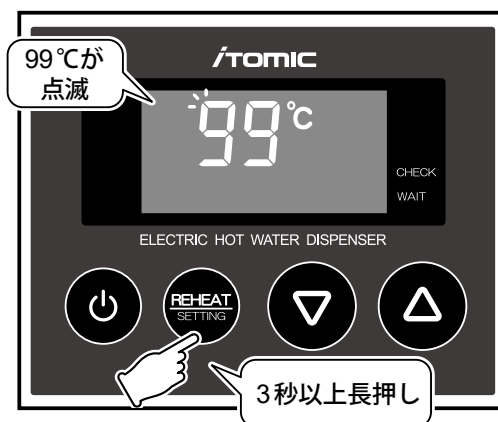
沸かし上げ温度を70℃～99℃の範囲で1℃刻みの設定ができます。
また、「給湯 1」「給湯 2」ボタンそれぞれにお湯の量をあらかじめ設定することができます。
下記の手順に従って、希望の温度、出湯量に設定してください。

※工場出荷時の設定温度は「99℃」に設定されています。また、「給湯 1」「給湯 2」ボタンはともに、ボタンを押している間だけ出湯する〈継続出湯〉に設定されています。

沸かし上げ温度を設定する

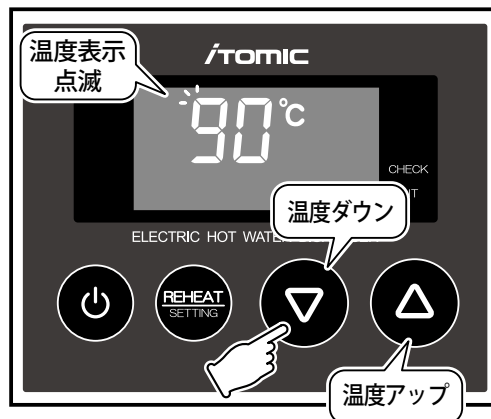
- ①運転中に、「SETTING」ボタンを3秒以上長押しし〈設定モード〉に切り替えます。

・「99℃」が点滅します。



②「▽」「△」ボタンを押して、沸し上げ温度を設定します。

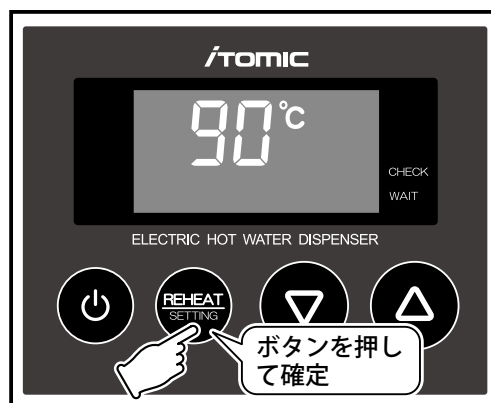
- ◆「▽」ボタンが設定温度**ダウン**、「△」ボタンが設定温度**アップ**です。
- ◆設定可能な温度は**70～99℃**です。設定単位は**1℃刻み**となります。
- ※1秒以上の長押しで高速でアップダウン可能になります。
- ※設定中は温度表示は点滅しています



<例> 設定温度を90℃に設定した場合

③お好みの沸かし上げ温度（90℃）が表示されたら「SETTING」ボタンを押して確定させます。

- ・確定すると、「給湯」ボタンの出湯量を設定するモードに切り替わります。



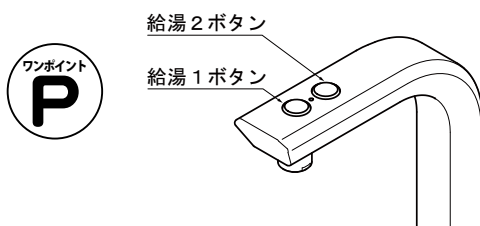
以上で沸かし上げ温度の設定は完了です。

出湯量を設定する

給湯ボタンごとにお湯の量をあらかじめ設定することができます。下記の手順に従って、希望の出湯量を設定してください。

※工場出荷時は「給湯 1」ボタン、「給湯 2」ボタンともにボタンを押している間だけ出湯する〈継続出湯〉にセットされています。

・熱湯栓のボタンと湯沸器本体のボタンは以下の通り対応しています。



熱湯栓	湯沸器本体	液晶マーク
給湯 1 ボタン	▽ボタン	①
給湯 2 ボタン	△ボタン	②

※熱湯栓の給湯 1 ボタンの湯量を設定したい場合は湯沸器の▽ボタンを、熱湯栓の給湯 2 ボタンの湯量を設定したい場合は湯沸器の△ボタンを押してください。

「給湯 1」ボタンに出湯量を設定する場合

★出湯量設定は、沸かし上げ温度の設定完了後のみ行うことができます。

①「SETTING」ボタンを押して、〈出湯量設定モード〉に切り替えます。

・工場出荷時の「0cc」が点滅し、「①」が点灯します。



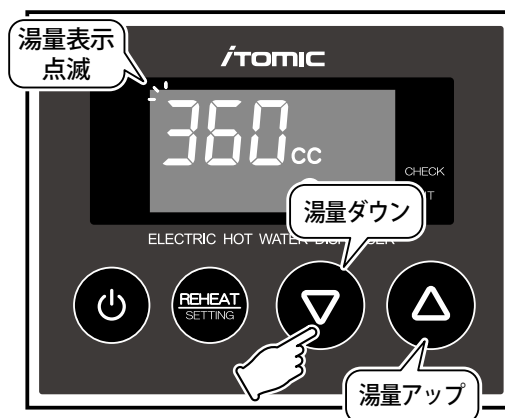
②「△」ボタンを押して、湯量を設定します。

・湯量表示は点滅しています。

◆「▽」ボタンが設定出湯量ダウン、「△」ボタンが設定出湯量アップです。

◆設定可能な出湯量は100 ～ 990cc (工場出荷時) ですが、最大値を1.9Lに変更することが可能です。※詳細はP.27「F4…定量出湯量最大値変更」をご参照ください。

◆設定単位は
「rEG」：定量出湯量最大値 990ccの場合は **10cc 刻み**
「uP」：定量出湯量最大値 1.9Lの場合は **990ccまでは10cc 刻み、1.0L 以上からは0.1L (100cc) 刻み**となります。



<例>「▽」ボタンの出湯量を360ccに設定した場合

※ 1秒以上の長押しで高速でアップダウン可能になります。

※ここで湯量を設定しない(0ccのまま)場合は、「▽」ボタンは継続出湯になります。

③お好みの出湯量 (360cc) が表示されたら
「SETTING」ボタンを押して確定させます。

- ・確定すると湯量表示は点滅から点灯に変わります。

以上で「給湯 1」ボタンの出湯量設定は完了です。



「給湯 2」ボタンに出湯量を設定する場合

★「給湯 2」ボタンの設定は、「給湯 1」ボタンの設定完了後にのみ行うことができます。

④「給湯 1」ボタンの設定確定後は「②」が点灯しています。

⑤出湯量設定は「給湯 1」ボタンの手順②～③と同様に設定してください。

以上で出湯量設定は完了です。



・出湯量設定を途中で終了させたい場合は、「運転スイッチ」を3秒長押ししてください。通常運転モードに戻ります。

・出湯量設定モードに切り替えたあと、ボタン操作が30秒なかった場合は自動で通常運転に戻ります。



定量出湯量を微調整(補正)する

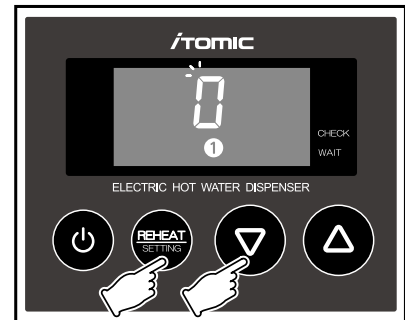
セットした出湯量と実際に出湯した湯量に差が生じた場合は、以下の手順で調整してください。
調整単位は約10cc刻みとなります。

- ①通常運転中に、「SETTING」ボタンを押しながら補正したい「▽」「△」ボタンを押します。

※必ず「SETTING」ボタンを先に押してください。

- ②工場出荷時の「0」(補正無し)が表示され、選択した「給湯」ボタンのマークが点灯します。(右図の場合は「①」)

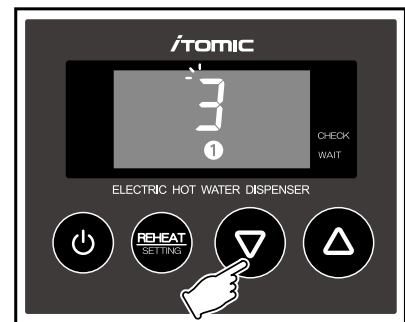
※熱湯栓と湯沸器のボタンごとの対応についてはP.21ワンポイントを参照ください。



- ③「▽」ボタンまたは「△」ボタンを押して、補正量を調整します。

◆「▽」ボタンが設定出湯量ダウン、「△」ボタンが設定出湯量アップです。

◆表示される数字は-99～99です。「1」ごとに約10ccずつ、-990cc～+990ccの間で出湯量の調整が可能です。



- ④補正したい量の数字を表示させたら、「SETTING」ボタンを押して完了させます。
・補正した数字が点滅→点灯に変わり、自動で通常運転に戻ります。

※出湯量補正モードに切り替えたあと、ボタン操作が30秒なかった場合は自動で通常運転に戻ります。

※途中で「運転スイッチ」を3秒間長押しすると設定がキャンセルされ、通常運転に戻ります。

※定量出湯量最大値を1.9Lに変更し、設定出湯量を1.0L以上にした場合は、微調整(補正)できません。設定出湯量が990cc以下であれば微調整(補正)することが可能です。

※各ボタンに一度設定した定量出湯量の補正值は記憶されるため、改めて補正值を変更しない限り継続して機能します。

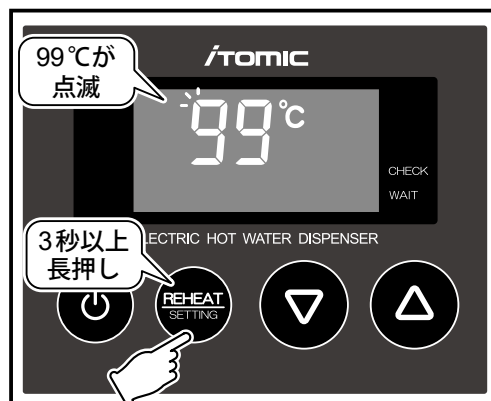
Fモード

「運転スイッチ」と「SETTING」ボタンの操作を無効にしたり、液晶表示の明るさの調整など、各種設定を行うモードです。変更する場合は下記の手順で操作してください。

- ①運転中に、「SETTING」ボタンを3秒以上長押ししし〈設定モード〉に切り替えます。

・現在設定している設定温度が点滅します。

＜例＞設定温度を99℃に設定した場合

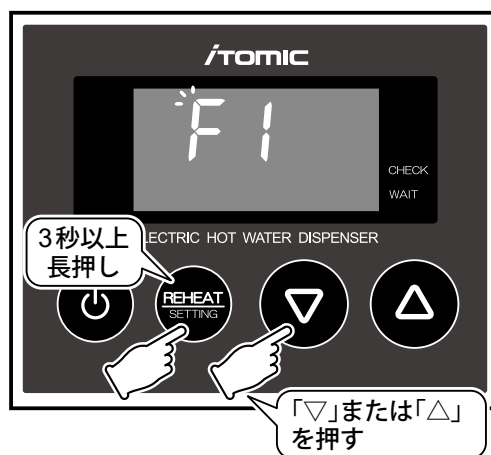


- ②〈設定モード〉に切り替わった状態から、「SETTING」ボタンを3秒以上長押ししてください。「F1」～「F5」が選択できる〈Fモード〉になります。

・「F1」が点滅します。

- ③「▽」「△」ボタンを押して「F1」～「F5」のいずれかを選択してください。

※「▽」ボタンがダウン、「△」ボタンがアップです。



各モードの意味（工場出荷時）

- F1：スイッチロック (OFF)
- F2：液晶表示の明るさ調整 (中間)
- F3：省エネ表示設定 (1分)
- F4：定量出湯量最大値変更 (990 cc)
- F5：出湯ボタンの切替 (熱湯栓)

F1 …スイッチロックの設定

お湯を利用する一般ユーザーが機器運転のON / OFFや各種設定変更が出来ないように、「運転スイッチ」と「SETTING」ボタンをロックさせる機能です。

この機能は機器運転中のみ有効となります。

- ①「F1」が点滅している状態で「SETTING」ボタンを押してください。「oF」が点滅表示します。



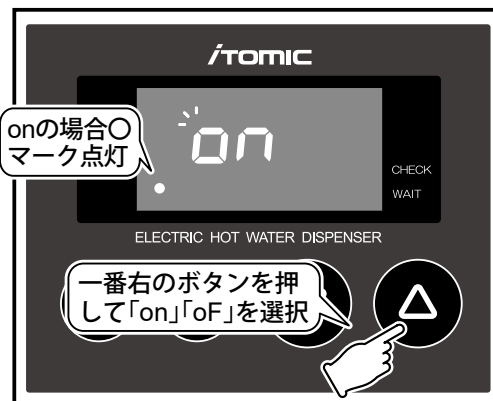
- ②「▽」ボタンまたは「△」ボタンを押して「on」「oF」のどちらかを選択してください。

- ③「SETTING」ボタンを押して確定させてください。

oF: 運転/「SETTING」ボタン操作が有効
○マーク消灯(スイッチロック OFF)

on: 運転/「SETTING」ボタン操作が無効
○マーク点灯(スイッチロック ON)

※工場出荷時はスイッチロック OFF (oF) の設定です。

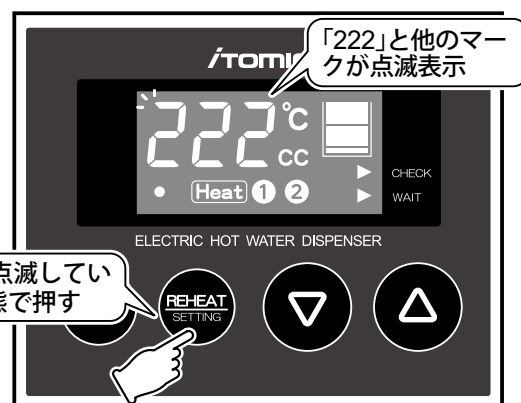


<例>スイッチロックを「ON」に設定した場合

F2…液晶画面の明るさ調整

液晶画面に表示される数字、マークの明るさを調整します。

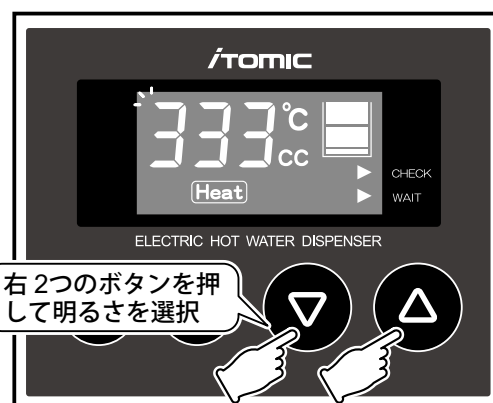
- ①「F2」が点滅している状態で「SETTING」ボタンを押してください。「222」が点滅表示されます。
他のマークも点滅表示され、明るさが調整できるようになります。



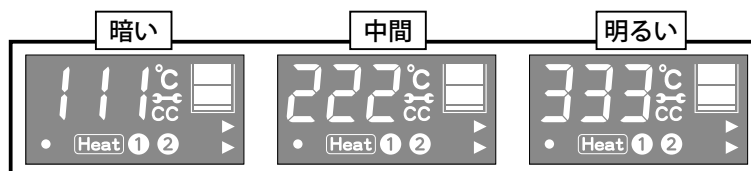
- ②「▽」および「△」ボタンを押して好みの明るさを選択してください。

・調整時の表示は以下のようになります。
「111」「222」「333」の表示ごとに明るさが切り替わります。数字が大きい方がより明るいです。

※工場出荷時は中間 (222) の設定です。



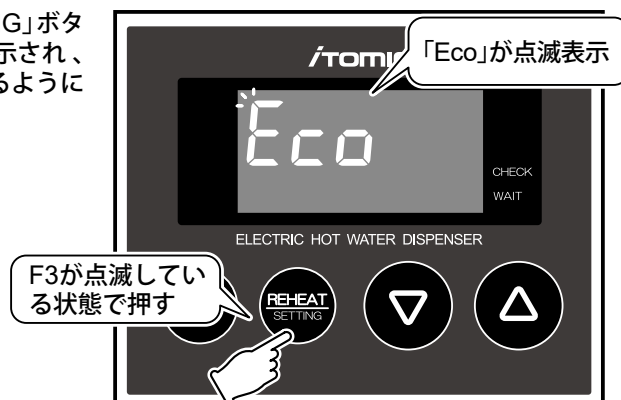
<例>画面の明るさを「明るい」に設定した場合



F3 …省エネ表示設定

無操作状態において液晶画面が自動消灯するまでの時間を設定します。

- ①「F3」が点滅している状態で「SETTING」ボタンを押してください。「Eco」が点滅表示され、自動消灯するまでの時間が設定できるようになります。



- ②「▽」および「△」ボタンを押して自動消灯するまでの時間を選択してください。



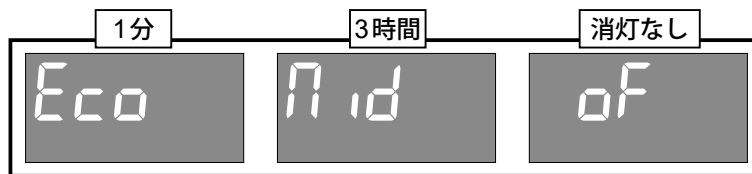
- ・自動消灯するまでの時間は以下ようになります。

「Eco」: 1分
「Mid」: 3時間
「oF」: 消灯なし

<例>液晶表示時間を3時間に設定した場合

※工場出荷時は1分(Eco)の設定です。

- ③「SETTING」ボタンを押して確定させてください。

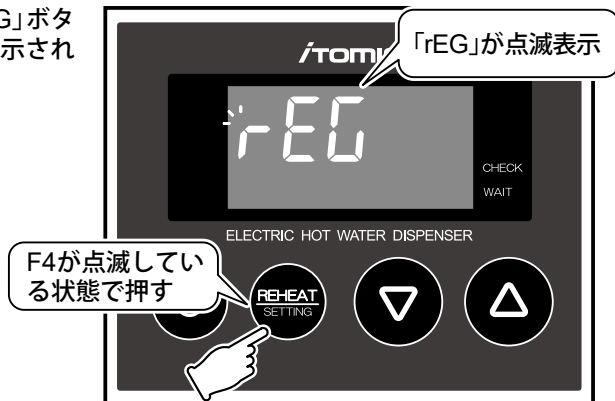


(「Mid」表示)

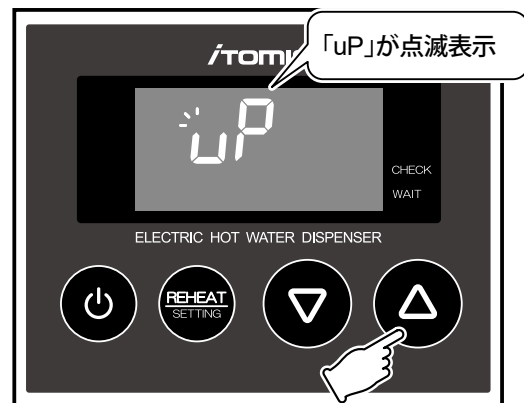
F4 …定量出湯量最大値変更

定量出湯量の最大値を変更します。

- ①「F4」が点滅している状態で「SETTING」ボタンを押してください。「rEG」が点滅表示されます。



- ②「△」ボタンを押すと「uP」が点滅表示され、定量出湯量最大値が1.9Lに変更されます。



出湯量設定可能単位

rEG (定量出湯量最大値 990cc) :
10cc 刻み

uP (定量出湯量最大値 1.9L) :
990ccまでは10cc 刻み
1.0 ~ 1.9Lまでは100cc 刻み

※工場出荷時は990cc(rEG)の設定です。

<例> 定量出湯量最大値を1.9Lに変更した場合

- ③「SETTING」ボタンを押して確定させてください。

F5 …出湯ボタンの切替

熱湯栓と本体のどちらで出湯ボタンを操作するか選択します。

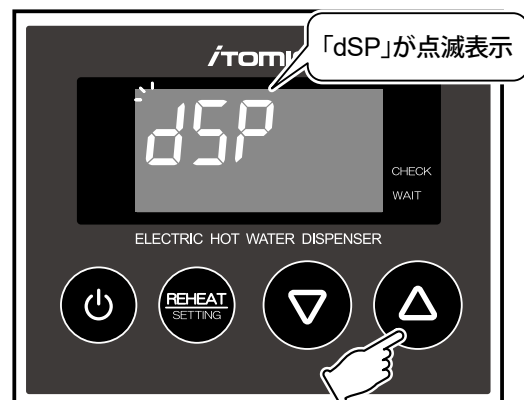
- ①「F5」が点滅している状態で「SETTING」ボタンを押してください。「SPt」が点滅表示されます。
- ②「▽」ボタンを押すと「dSP」が点滅表示され、出湯ボタンが本体に変更されます。

SPt : 熱湯栓にて操作

dSP : 本体にて操作

※工場出荷時はSPtに設定されています。

- ③「SETTING」ボタンを押して確定させてください。



3. 出湯する

本機はあらかじめ設定した量をワンプッシュのボタン操作で出湯することができる〈定量出湯タイプ〉です。「給湯 1」「給湯 2」ボタンそれぞれにお好みの出湯量を設定することができます。また、定量出湯を解除して、ボタンを押している間だけ出湯する〈継続出湯タイプ〉に設定することも可能です。

※出湯量の設定方法はP.21「出湯量を設定する」を参照ください。

① カップなどを注湯口の真下にくるように置いてください。

② 「給湯 1」または「給湯 2」ボタンを押すと、あらかじめ設定された湯量で出湯します。

設定した量のお湯が出ると自動で出湯が停止します。

※ワンプッシュで出湯可能です。押し続ける必要はありません。(ボタンから指を離しても出湯は止まりません)

表示ランプについて

点灯	出湯できます
消灯	出湯できません
点滅	湯沸器に異常が発生しています



- 出湯量を設定している場合でも、「給湯 1」「給湯 2」ボタンから約 2 秒以上指を離さず、押し続けると継続出湯タイプと同様に押している間だけ出湯します。指を離すと出湯が停止します。
- 定量出湯中にお湯を止めたい場合は、「給湯 1」「給湯 2」ボタンをもう一度押してください。「給湯 1」「給湯 2」ボタンいずれを押しても出湯が停止します。
- 1 分以上ボタン操作がない場合は省エネ表示になります。(液晶表示が暗い状態)
- お湯の使用がない待機運転中は、タンク内の湯温が設定温度よりも低くなっています。通常運転では一定の温度低下を検知した際に自動で沸かし上げを開始しますが、「SETTING」ボタンを押すことで強制的に設定温度まで沸かし上げることができます。
- 「SETTING」ボタンを押すと「Heat」マークが点灯し、ヒーター加熱が始まります。タンク内の湯温が設定温度になると沸かし上げを完了します。
※「SETTING」ボタン操作時の 1 回に限ります。

お手入れの方法

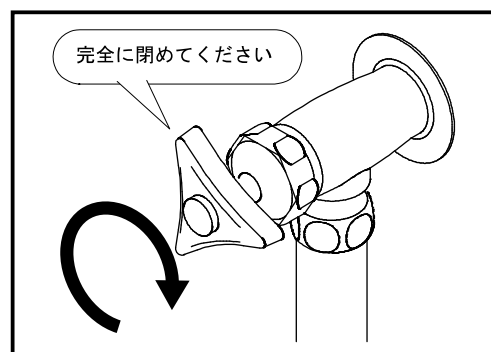
保守点検項目と実施の目安

点検項目	点検内容	点検の目安
コードおよびプラグ	コードが熱を持っていないこと、損傷および劣化していないこと、プラグの締め付け部にゆるみなどの異常がないことを確認してください。トラッキング現象による火災防止のために一次側ブレーカをOFFにし、コンセント周囲やプラグを乾いた布等で清掃してください。	1回／月
漏水全般について	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	1回／日
タンク内部の清掃	最低、年に1回以上はタンク、ヒーター、水位センサーの表面のスケールをナイロンタワシなどで清掃してください。(タンクにはセンサーなどの突起物が出ていますのでケガや部品の破損にご注意ください)	適宜
給水一次側フィルタの清掃	フィルタ内にゴミが詰まると湯沸器の性能に影響しますので最低、年に1回以上は止水栓を閉めてフィルタ内のゴミを除去してください。	

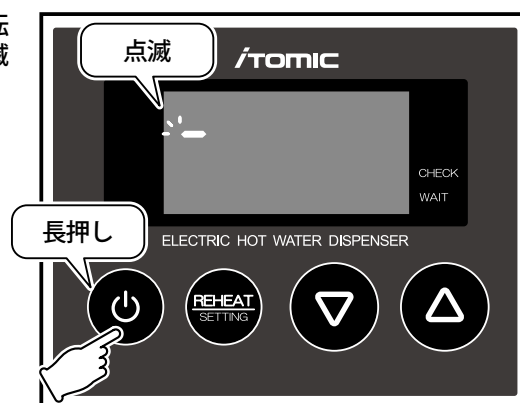
長期間使用しないときは

長期間、湯沸器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、下記の手順に沿ってタンク内のお湯を抜いてください。

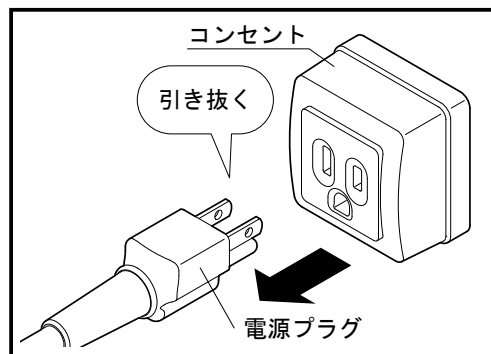
- ① 止水栓を完全に閉めてください。



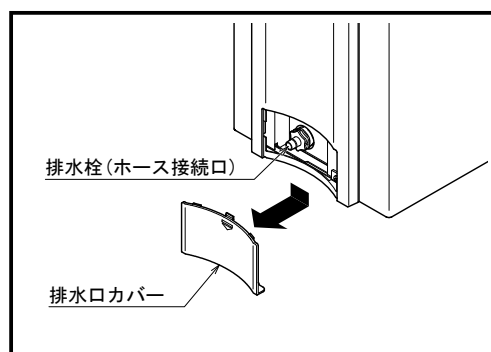
- ② 本体操作部の「運転スイッチ」を長押しし、運転OFFにします。デジタル表示部の一部が点滅します。



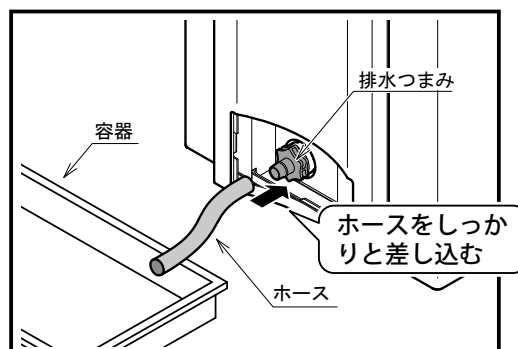
- ③一次側の漏電ブレーカをOFFにしてから、電源プラグをコンセントから抜き、タンク内のお湯が冷めるまで最低でも24時間放置してください。



- ④本体正面下部にある排水口カバーを外します。



- ⑤排水を受ける容器を用意し、ホースを排水栓のホース挿入口にしっかりと差し込みます。
(適合ホース内径:10mm)



- ⑥排水つまみを回して排水します。

※湯温が高い場合があるのでやけどに十分ご注意ください。

- ⑦排水が終了したら排水つまみを閉め、ホースを外してカバーを取り付けます。



短期間使用しないときは

短期間湯沸器を使用しない場合には、状況に応じてそれぞれ下記のとおりに対処してください。

- ご使用を停止する場合
 - ・「運転スイッチ」をOFFにしてください。
- 停電の場合
 - ・湯沸器の操作、止水栓の開閉など、機器や配管に対処する必要はありません。停電からの復旧をお待ちください。
- 断水の場合
 - ・止水栓を閉め、「運転スイッチ」をOFFにして、断水が終了するまでお待ちください。

凍結防止対策

凍結のおそれがある場合は、以下の方法にて機器の凍結予防措置を行ってください。

＜機器の運転を継続しつつ凍結を予防する場合＞

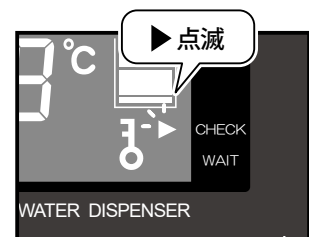
機内温度が氷点下にならないように、機器の運転を継続させて沸かし上げを続けてください。また、凍結の可能性がある場所では各配管に対し、ヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。

注湯口のお手入れ

注湯口は、長期のご使用によりスケールが付着し、湯の出が悪くなる場合があります。定期的に清掃してください。

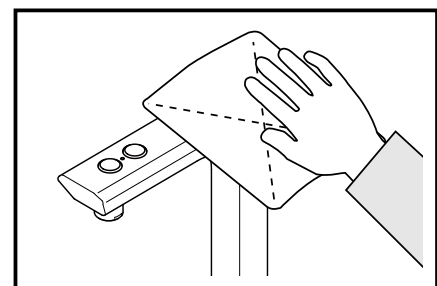
タンク内のお手入れ

通常運転中、液晶画面に▶のマークが「CHECK」の位置で点滅表示している場合は、タンク内の水位センサーがスケール付着などによって、水位を正しく検知できない状態になっています。そのままの状態でも運転を続けた場合、注湯口からお湯があふれ出る（オーバーフロー）おそれがありますので点検が必要です。アフターサービス窓口までご連絡ください。



熱湯栓のお手入れ

水に浸して固く絞った布で拭いてください。汚れがひどいときは、適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



停電後の対応について

停電後の最初の運転では、停電が起こる前の運転状態で復帰します。運転中に停電が起きた場合は運転 ON 状態で復帰し、運転停止中に停電が起きた場合は運転 OFF のままとなります。また、設定温度やスイッチロックの機能も維持したまま復帰します。

湯水入れ替え方法

タンク内の湯水を強制的に入れ替える作業です。

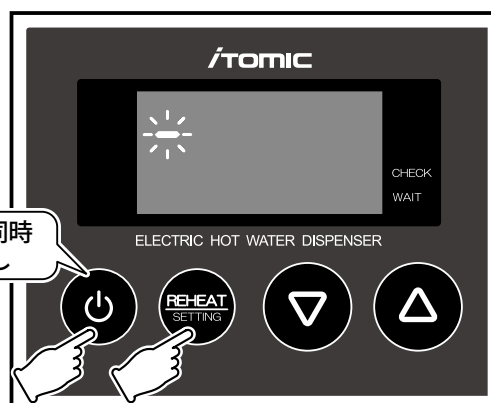
設置直後や長期間の休止後などには、配管内に残った切削油や錆などがタンク内に流入し、出湯したお湯に臭気や味の異常がある場合があります。以下の手順に従って湯水の入れ替えを行ってください。

- ①運転 OFF 状態であることを確認してください。



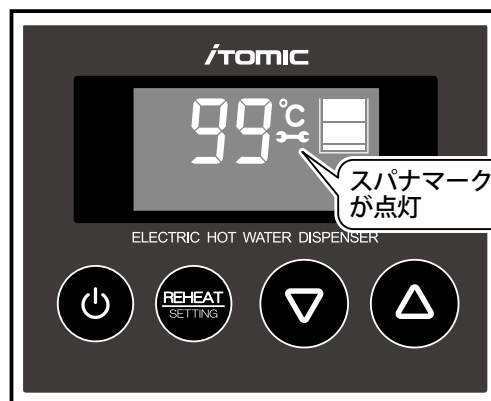
- ②「運転スイッチ」と「SETTING」ボタンを3秒以上長押ししてください。

2つのボタンを同時に3秒以上長押し



- ③スパナマークが点灯し、メンテナンスモードで運転を開始します。

※メンテナンスモードで運転中は、給水によりタンク内湯温が低下してもヒーター加熱による沸かし上げ運転を行いません。また、タンク内の湯温が低下した際に「Lo」表示せず、現在湯温を表示したままでも出湯することも可能です。



取扱説明

お手入れの方法

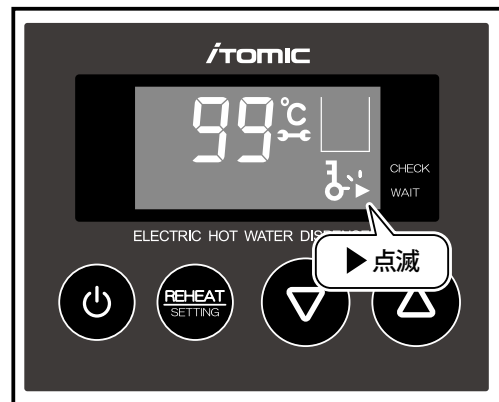
- ④「給湯」ボタンを押して出湯を続けてください。

※定量出湯タイプの出湯方法については、P.28
「出湯する」を参照してください。



- ⑤しばらく出湯を続けるとWAITの▶マークが点滅してお湯が出なくなります。

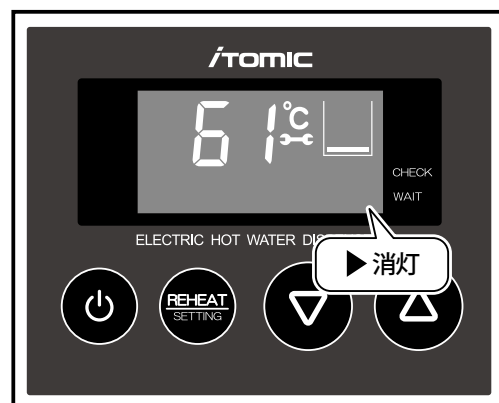
※ WAITの▶マークが点滅している時は、タンク内の水位が低下しているため出湯することができません。



- ⑥タンクに給水されていますので、WAITの▶マークが消灯するまでしばらくお待ちください。

- ⑦▶マークが消灯すると再び出湯することが可能になります。手順④～⑥を3回程度繰り返し、タンク内の湯水を入れ替えてください。出湯した湯水から臭気や味に異常がないか確認してください。

※表示温度よりも高温の湯が出る場合があります。やけどには十分注意してください。



- ⑧「運転スイッチ」を3秒以上長押ししてメンテナンスモードを終了します。

以上で湯水入れ替え作業は完了です。



湯水入れ替え作業が完了した後は「運転スイッチ」を3秒以上長押しして通常運転を開始してください。
湯水入れ替え作業を行った後もお湯から臭気や味に異常がある場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。

こんなときは

故障かな？と思ったら

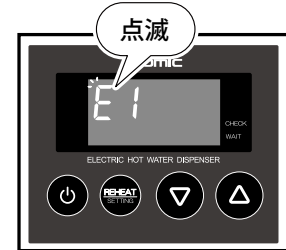
湯沸器が正しく運転しない場合や不調な場合、修理をご依頼の前にご確認ください。

状 況	ご確認ください	対処方法
運転スイッチを押しても液晶表示やデジタル表示が点灯しない	一次側の漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	漏電ブレーカをONにしてください。
	電源プラグは確実にコンセントに差し込まれていますか？	確実に差し込んでください。結線部が断線している場合もありますので、点検してください。
	電圧は正常ですか？	電圧を誤るとコントローラが破壊され、一切表示なくなります。故障の場合は、アフターサービス窓口までご連絡ください。
	停電ではありませんか？	復旧までお待ちください。
湯の出方が悪い	注湯口にスケールが付着していませんか？	注湯口を清掃してください。→ P.31「注湯口のお手入れ」参照。
湯にならない	機器の運転がOFFになっていませんか？	本体の運転スイッチをONにしてください。ONにしても改善しない場合は点検が必要です。アフターサービス窓口までご連絡ください。
湯も水も出ない	断水ではありませんか？	断水が終わるまでお待ちください。
	給水量が不足していませんか？	止水栓を開いて調整してください。給水一次側のフィルタにつまりがある場合は、管理技術者の方に依頼し取り除いてください。
	止水栓が閉まっていますか？	閉まっていたら開けてください。
	液晶画面の「WAIT」の位置に▶マークが表示されていませんか？	タンク内のお湯の量が少ないため出湯できません。沸かし上げ中のため、▶マークが消えるまでお待ちください。
	熱湯栓の表示ランプが点滅していませんか？	湯沸器に異常が発生しています。P.35を参考に対処してください。
設定した量の湯が出ない	コネクタケーブルが接続されていますか？	P.13を参考にコネクタケーブルを接続してください。
	お湯の出方は安定していますか？	お湯の出方が乱れている場合はP.16「ワンポイント」を参照してください。お湯の出方に問題がない場合はP.23「ワンポイント」を参考に、出湯量を補正してください。
湯沸器本体から音がする	沸かし上げ中ですか？	沸かし上げ中は湯温の上昇に伴って湯沸器本体から沸かし上げ音が出る場合がありますが、故障ではありません。
給水時、湯沸器本体や配管が振動音を発する	配管はしっかり固定されていますか？	給水管に長いフレキ管を使用している場合、しっかり固定されていないと「ウォーターハンマー現象」が起き、振動音が出ることがありますので、しっかり固定してください。
湯が臭い 湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは工事の際の切削油などが流入することがあります。出湯したお湯に異変を感じた際は、湯水の入れ替えを行ってください。P.32「湯水入れ替え方法」参照。
	長期間の休止後または断水直後ではないですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出ることがあります。湯水の入れ替えを行ってください。P.32「湯水入れ替え方法」参照。
配管から漏水している	配管接続部がしっかり締められていますか？	配管接続部をしっかり締め直してください。
注湯口から湯気や湯水が垂れている	沸かし上げ中ですか？	沸かし上げ中は注湯口から少量の湯気や湯水が出る場合がありますが、連続的または大量に出ている場合は点検が必要です。機器の運転を停止（電源プラグをコンセントから抜く）し、止水栓を閉め、アフターサービス窓口までご連絡ください。

エラーコードについて

湯沸器に異常が発生すると自動的に運転 OFF 状態となり、エラーコードの点滅表示と、ブザー音により報知します※。下表を参照の上、対処してください。

※ブザーを止めるには「運転スイッチ」を1回押してください。



エラーコード	機器の状態	対処方法
E0 E51 E52	ヒーターが異常加熱している可能性があります。	エラー表示確認後、コンセントから電源プラグを抜いてください。部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E1 E6	給水することができなかった可能性があります。	断水の場合は、断水が終了するまでお待ちになり、エラー解除後に運転を再開してください。止水栓が閉まっていた場合、止水栓を開いた後、エラー解除後に運転を再開してください。それ以外の場合は部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E2	温度センサーが故障している可能性があります。	部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E3	ヒーターが断線またはコントローラが故障している可能性があります。	コンセントから電源プラグを抜いてください。部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E4 E7 E81 E82	水位センサーが機能していない可能性があります。	止水栓を閉めてください。メンテナンス・部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E5	給水を停止することができなかった可能性があります。	止水栓を閉めてください。メンテナンス・部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E10	給水流量を調整する水量サーボの故障の可能性があります。	エラー解除後に運転を再開してください。再度エラーになるような場合は、部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。
E11	製品内部で漏水を起こしている可能性があります。	止水栓を閉めてください。メンテナンス・部品交換が必要な可能性がありますのでアフターサービス窓口までご連絡ください。

エラー解除方法

「運転スイッチ」と「SETTING」ボタンを10秒以上長押ししてください。液晶全消灯・エラー解除完了後、自動で初期動作を開始します。(P.14③参照)

※上記方法でエラー解除できない場合は、アフターサービス窓口にご連絡ください。

その他の表示について

上記のエラーコード以外に、通常運転状態とは異なる表示が出ている場合にはアフターサービス窓口にご連絡ください。

アフターサービス

有寿命部品について

本製品の部品は、使用しているうちに徐々に劣化する有寿命部品です。本製品を長く、安全に使用していただくためには、電磁弁などの弁類、パッキン類、電装部などの劣化した部品を交換する必要があります。

- ・部品交換(有償)はアフターサービス窓口までご連絡ください。
- ・交換時期目安：設置より3年～7年
※使用頻度、環境によっては交換が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後7年です。

メンテナンス契約について

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル課までご連絡ください。また、部品のご注文はアフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼されるときは、P.37の故障状況シートの必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。(型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。)

保証票		電気温水器
型番		
貯湯量	L	
満水質量	約 kg	
最高使用圧力	0.1MPa	
電源	屋内用	
周波数	50/60Hz	
消費電力	JET	
保証期間	納入後3年間	
製造番号		
株式会社日本イトミック		

取扱説明

アフターサービス

アフターサービス窓口

TEL 〈全国共通ナビダイヤル〉



一般電話・公衆電話・携帯電話の場合

0570-011039

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

受付時間:24 時間 365 日(営業時間:8:45～17:45)

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様：03(3621)2161 関東地区以外のお客様：裏表紙記載の最寄りの営業所にお問い合わせください。

インターネット 〈インターネット修理受付窓口〉

<https://www.itomic.co.jp/repair/>

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX 〈FAX 修理受付窓口〉 03 (3621) 2163

FAX で修理のご依頼を受け付け致します。当ページの故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所へお送りください。(裏表紙に記載)

故障状況シート

貴 社 名				ご 担 当 者 名			
ご 住 所							
T E L				F A X			
製 品 型 番	EHWDU-14 _____ (1)						
電 源、電 力				製 造 番 号			
設 置 場 所				保 証 期 限			
状 態							

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示の上、アフターサービス窓口までご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - （1）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
 - （2）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - （3）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - （4）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - （5）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - （6）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - （7）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - （8）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - （9）電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
 - （12）火災、爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
 - （13）保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様で自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧ください。か、アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本イトミック

本社・営業本部 TEL : 03 (3621) 2121 (代)
FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
ホームページ <https://www.itomic.co.jp/>

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。



一般電話・公衆電話・携帯電話の場合

0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

- ※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
- ※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。
- ※P.H.S.、I.P.電話からはご利用になれません。関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所まで直接お問い合わせください。

関東地区お問い合わせ TEL : 03 (3621) 2161
FAX : 03 (3621) 2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためにはメンテナンス契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課 TEL : 03 (3621) 2760
FAX : 03 (3621) 2160

《担当エリアと営業所》

北海道地区 TEL : 011 (615) 6681
北海道営業所 FAX : 011 (615) 7004
〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10 (ラポール 24 軒 2 号館)
担当エリア：北海道地区全域

東北地区 TEL : 022 (357) 0848
東北営業所 FAX : 022 (357) 0847
〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂 2-8-21
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 TEL : 03 (3621) 2121
(株) 日本イトミック 本社 FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県／静岡県

中部・北陸地区 TEL : 052 (222) 2561
中部営業所 FAX : 052 (222) 2559
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12 (アレックスビル 3F)
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 TEL : 06 (7177) 4949
関西営業所 FAX : 06 (7177) 4948
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 3-1-11 VORT 御堂筋本町Ⅱ 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 TEL : 082 (240) 1361
中国営業所 FAX : 082 (240) 1363
〒730-0051 広島県広島市中区大手町 2-3-9 (大手町中村ビル 2F)
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 TEL : 092 (481) 3911
九州営業所 FAX : 092 (481) 3930
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。